

下肢末梢血管に対する治療効果の検証

【目的】 下肢末梢血管に対する治療効果をABIにて検証した。

【対象及び方法】 2012. 1. 1～2012. 12. 31 の期間に当院にて下肢PPIを施行し、且つTLRによる再治療を施行していない150症例（男性116名・女性34名・平均年齢71.7±10.1歳）を対象とし、治療部位別にABIを治療前後で測定し、治療した部位によってどの程度ABIに変化を及ぼすかを比較検討した。

但し、治療部位別によるABI比較のため、複数ヶ所を治療した症例は除外した。

【結果】 治療を施行した150件中、ABIの低下もしくは改善が認められなかった症例は、CIA:1件・EIA:3件・CFA:0件・SFA:5件・BK:4件の計13件（8.6%）であった。ABIの平均は、治療前でCIA:0.61・EIA:0.69・CFA:0.54・SFA:0.79・BK:0.79、治療後でCIA:0.91・EIA:0.93・CFA:0.77・SFA:0.93・BK:0.95であった。治療部位による有意差は $P>0.05$ と認められなかった。

【考察】 治療部位によるABIの変化は確認されなかった。今回の検証は、複数ヶ所を治療したものを除外したため、病変の性状や長さによってもABIが左右されることが考えられる。SFAやBKは、CIAなどと比較して病変長が長いことにより、ABIが下がったものと思われる。

【結語】 今回の結果からBKへの治療効果が認められ、治療の必要性が示唆された。施行した治療内容によっても、ABIが変化する可能性があると思われる。今回は治療内容の検証は行わなかったため、今後、更なる検証の必要性を感じた。

評価1	評価2	評価3	採否
発表日時 月 日 (第 日)	セッション	会場	時 分～ 時 分

受付番号

演題番号